

これからのコネクテッドカーを想定したセキュリティ対策、サービス開発の推進が重要である。

## 2. 第5世代移動通信システム(5G)について

現在、わが国においては、移動体無線技術の高速・大容量化路線が進められ、移動通信システムは、AI、IoT時代のICT(情報通信技術)の基盤技術と言われる第5世代移動通信システム(5G)に向かっている。これまでは、電話(音声)とブロードバンドで発展してきたが、携帯電話は基本的に人と人の「コミュニケーション」を行うためのツールだった。5Gでは、ICTはモノとモノを結ぶIoTの方向に大きく変わろうとしており、コミュニケーションとビジネスも変わると考えられる。

5Gは世界各国・地域で取り組みが進められているが、①最高伝送速度10Gbpsの「超高速」、②接続機器数100万台km<sup>2</sup>という「多数同時接続」、③1ミリ秒の遅延という「超低遅延」を特徴としている。5Gの特に大きな特徴は②と③。多数同時接続の機能は、家電・車など身の回りのあらゆる機器(モノ)がつながる環境を実現する。超低遅延は、遠隔地においてもロボットの操作をスムーズに行うことや自動運転に活かすことが可能になる。

この5Gによって、IoT時代が本格的に到来する。タイムラグを感じる事のない、リアルタイムな通信が可能となり、クルマがネットワークに依存しないでサービス展開をしていた社会から、ネットワークとつながり、新たな価値やビジネスを生み出すコネクテッドカー社会へと進展する。ビッグデータ、AIの進化もあいまって、地図、環境などの情報とクルマを組み合わせる技術が様々な分野に普及展開し、新サービス創出が促される。

現在、当省は5Gを社会実装させることを念頭に、物流分野やスポーツの分野など具体的なフィールドを活用した総合的な実証実験を東京および地方で実施している。こうした実証実験を経て世界中の企業や大学などが参加できるオープンな環境を構築し、国際的な標準化活動へ貢献したいと考えている。

当省は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年を5G実現のターゲットイヤーとしている。2020年は5Gが安全・安心の確保、便利な社会の実現、地域の活性化・地方創生、新たなビジネスの創出を支える基盤となるよう、引き続き必要な環境整備などを推進していく。



**東** 京・上野の不忍池弁天堂境内に建つ「東京自動車三十年(みそじ)会記念碑」の法要が11月22日、同弁天堂で執り行われた。東京都内の自動車関連業界の経営者ら約30人が出席=写真=、大正から昭和にかけて自動車の普及に努めた先人たちに慰霊するとともに、現在の業界が直面する技術革新の荒波を乗り越えていく覚悟を新たにした。

法要では、導師を務めた北岡興真・東叡山福聚院住職による読経が流れる中、参列者が順に回し焼香。北岡導師は続く法話で、「今の豊かな時代の背景には自動車の多大な貢献がある。功績を残された方々に感謝するとともに、皆さんも胸を張って仕事に努めてください」などと述べた。

その後、実行委員長の西村健二・東京都自動車会議所会長代行(東京都自動車整備振興会会長)が「自動車関連産業の黎明期に奮闘された諸先輩方に思いをはせ、慰霊することにより、皆さま方がこの革新の時代に立ち向かう気持ちを新たにできる機会とさせていただければ幸いです」と挨拶。続いて、みそじ会代表世話人の中谷良平・安全自動車(株)会長が挨拶に立ち、「自動車はこの100年ですごい進化を遂げたが、またさらに進化しようとしている。(電気や水素など)いろいろな動力が実用化されてものづくりに迷いも出ているが、いずれ収束されていくと思う。いずれにしろ、業界がますます大きくなるのは間違いなく、皆さま方の繁栄を願う」と話した。

東京自動車みそじ会は1953年に自動車関連業界の親睦団体として発足。当時、業界歴30年以上と、1923年の関東大震災の前から自動車関連事業に携わっていた人を会員としたので、この名がついた。発足当初のメンバーを顕彰する記念碑は、1975年に建立。今では不忍池弁天堂境内に建つ石碑の中でも、一般の人によく知られる存在となっている。

[東京都自動車会議所]